



S.Setoguchi

THE HAKODATE NISAI STAKES

第56回 函館2歳ステークス (GⅢ)

1着 賞金 31,000,000円 2着 12,000,000円 3着 7,800,000円 4着 4,700,000円 5着 3,100,000円
付加賞 525,000円 150,000円 75,000円



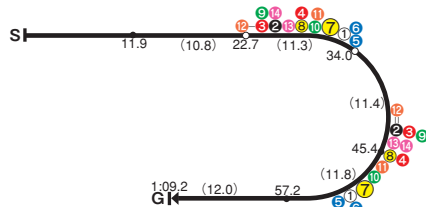
レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

2歳
負担重量 馬齢重量

2024.7.13 函館 晴・良 芝1200m (国際) (特指)

着順	馬番	馬名	性別	年齢	斤量	騎手	タイム (管差)	コーナー 通過順位	上り 600m (管差)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑦	サトノカルナリル	牡	2	55	佐々木大輔	1:09.2	4-4	34.8	496(+2)	3.4①	堀 宣行(美浦)	105
2	⑤	ニシノラヴァンタ	牝	2	55	永野猛蔵	1¼	1-1	35.4	420(+4)	10.0⑧	奥平雅士(美浦)	102
3	①	エンドレスサマー	牡	2	55	横山和生	アタマ	2-2	35.1	500(+8)	6.2②	上原佑紀(美浦)	102
4	④	ヤンキーバローズ	牡	2	55	岩田康誠	½	10-9	34.2	466(-4)	8.9⑤	上村洋行(栗東)	101
5	⑩	カルプスベルシュ	牝	2	55	鮫島克駿	クビ	5-5	34.9	452(+4)	7.0④	石坂公一(栗東)	
6	③	リリーフィールド	牝	2	55	武 豊	1	12-11	34.1	428(-8)	9.5⑥	小崎 憲(栗東)	
7	⑥	モズナナスター	牝	2	55	菱田裕二	1	2-2	35.6	454(-10)	97.3⑫	矢作芳人(栗東)	
8	②	チギリ	牝	2	55	北村友一	クビ	10-11	34.5	456(-2)	28.9⑨	鹿戸雄一(美浦)	
9	⑨	ヴァレヴ	牝	2	55	浜中 俊	ハナ	12-11	34.4	468(+2)	9.7⑦	武幸四郎(栗東)	
10	⑧	エメラヴィ	牝	2	55	横山武史	クビ	9-9	34.9	450(+10)	6.8③	松永幹夫(栗東)	
11	④	ヒデノブルースカイ	牡	2	55	高杉史朗	1¼	7-7	35.3	420(±0)	45.9⑩	梅田智之(栗東)	
12	⑪	シュードタキライト	牡	2	55	丹内祐次	2	5-6	35.9	476(-2)	84.2⑪	菊川正達(美浦)	
13	⑧	ラインパシオン	牝	2	55	大江原比呂	3	7-7	36.1	394(-4)	209.1⑬	水野貴広(美浦)	
14	⑫	オカメノコイ	牝	2	55	藤岡佑介	大差	14-14	37.6	452(+4)	131.6⑬	小笠倫弘(美浦)	

単勝⑦340円(1¼倍) 複勝⑦160円(1¼倍) ⑤250円(5¼倍) ①210円(4¼倍) 格連④-⑤2,320円(12¼倍)
馬連⑤-⑦2,280円(8¼倍) ワイド⑤-⑦890円(12¼倍) ①-⑦610円(1¼倍) ①-⑤950円(18¼倍)
馬単⑦-⑤3,560円(7¼倍) 3連複①-⑤-⑦3,780円(5¼倍) 3連単⑦-⑤-①18,580円(21¼倍)



通過タイム : 600m 800m 1000m 上り : 800m 600m
34.0 - 45.4 - 57.2 46.5 - 35.2

アラカルト

- ・佐々木大輔騎手はJRA重賞初勝利
- ・堀宣行調教師は函館2歳S初勝利。JRA重賞は本年6勝目、通算75勝目
- ・キタサンブラック産駒はJRA重賞通算13勝目
- ・牡馬の勝利は23年ゼルトザームに続く通算32回目

サトノカルナバル *Satono Carnival*

牡 鹿毛 2022.3.20生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・里見治氏 美浦・堀宣行厩舎
馬名意味・冠名+謝肉祭(西)

キタサンブラック 鹿毛 2012	ブラックタイド 黒鹿毛 2001	サンデーサイレンスUSA ウインドインハーヘアIRE
	シュガーハート 鹿毛 2005	サクラバクシンオー オトメゴコロ
リアリサトリスFR Realisatrice 鹿毛 2008	Numerous 鹿毛 1991	Mr.Prospector Number
	Riziere 鹿毛 1992	Groom Dancer Rive Du Sud

5代までのインブリード：Special M4×M5 Lyphard S5×S5×M5
Northern Dancer M5×M5

INTERVIEW

田中洋二 厩舎長(ノーザンファーム空港)

心身ともにしっかりとした馬でした

育成厩舎に来た頃から成長力の高さが感じられ、心身ともにしっかりとした馬という印象がありました。乗り役の指示を聞き入れる賢さに加えて、仕掛けた時の反応の良さも兼ね備えていました。初戦の内容も素晴らしかったのですが、今回も庄巻のパフォーマンスを見てくれました。ミックスセール当歳セッション出身馬初の重賞勝ち馬となったことも嬉しかったです。



Y.Machida

東京・芝1400mの初陣を7馬身差で圧勝。この日も距離の短縮や初コースを問題とせずにデビュー2連勝を飾った本馬は、2022年に創設されたノーザンファームミックスセールで里見治オーナーが落札した経歴を持つ。同セール出身馬の重賞制覇が初めてなら、デビュー3年目の新鋭・佐々木騎手も嬉しい重賞初制覇を達成。スプリントのJRA重賞を制したキタサンブラック産駒も初めて、数々の「歴史の扉を開く勝利」となった。

父キタサンブラック

北海道日高町 ヤナガワ牧場生産 中央20戦12勝(ジャパンC^{G1}、菊花賞^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(春)^{G1}2回、天皇賞(秋)^{G1}、大阪杯^{G1}、京都大賞典^{G2}、スプリングS^{G2})、年度代表馬2回、最優秀4歳以上牡馬2回、18年から供用〔代表産駒〕イクイノックス(ジャパンC^{G1}、有馬記念^{G1}、天皇賞(秋)^{G1}2回、宝塚記念^{G1}、ドバイシーマクラシック・首^{G1}、東京スポーツ杯2歳S^{G2}、日本ダービー^{G1}2着、皐月賞^{G1}2着)、ソールオリエンズ(皐月賞^{G1}、京成杯^{G2}、日本ダービー^{G1}2着、宝塚記念^{G1}2着、菊花賞^{G1}3着)、ガイアフォース(セントライト記念^{G2}、フェブラリーS^{G1}2着)、スキルウィング(青葉賞^{G2})、ラヴェル(アルテミスS^{G2})、サトノカルナバル(本馬)、ウィルソンテソーロ(白山大賞典J^Ⅲ、マーキュリーC^{J^Ⅲ}、かぎつばた記念J^Ⅲ)、ジャスティンスカイ(後出)、テオーステルス(すばるS・L)、エコロデュエル(京都ジャンプS^{J^Ⅲ})

母リアリサトリスFR

仏20戦3勝(バゲタル賞・L2着、ロンデドニユイ賞・L3着、リラ賞・L3着)、12年輸入

リアリスト(13 牡父ゼンノロブロイ)中央34戦3勝(ニセコ特別)、地方4戦0勝

セイントダイアナJPN Saint Diana(15 牝父ハーツクライ)英5戦1勝。16年輸出(英)

オメガ(16 牝父ダイワメジャー)中央6戦1勝、地方17戦1勝

スズカキング(17 牝父キズナ)中央29戦1勝 ④

セナリスト(18 牝父ブラックタイド)中央19戦2勝

ジャスティンスカイ(19 牝父キタサンブラック)中央14戦6勝(洛陽S・L、鞍馬S^Ⅱ、秋色S、鷹巣山特別、フリージア賞) ④

ダニーデン(20 牝父リアルスティール)中央8戦3勝(アーモンドアイメモリアル) ④

クラブ(21 牝父リアルスティール)中央5戦0勝

サトノカルナバル 本馬(22 牝父キタサンブラック)中央2戦2勝(函館2歳S^{G3}) 獲得総賞金38,725,000円

(24 牝父インディチャンプ)

※14、23(不受胎)

祖母リジエール Riziere

フランス産 仏2勝、ルーヴル Rouvres(ジャンプラ賞・仏^{G1})、ライトワン Right One(ジャイブールS・米^{G3})、リゼリFR(バリーマコールスタッドS・英L3着、スイートソレラS・英L3着、輸入繁殖牝馬)の母

数々の「歴史の扉を開く勝利

1969年の創設以降、歴代の優勝馬は北海道の競馬場でデビューした馬(ホッカイドウ競馬の所属馬も含む)ばかり。2歳馬のローテーションが多様化した近年も、本州デビューから転戦してきた組は勝利に手が届いていなかった函館2歳Sだが、今年はいよいよそんな「ジンクス」が破られた。勝利を飾ったのはサトノカルナバル。6月の東京開催でデビュー勝ちを収めたキタサンブラック産駒が1番人気の支持に応え、世代の重賞一番乗りを果たした。開催2週目に同舞台の新馬戦を逃げ切った後、ここに照準を定めてじっくり調整を積み重ねてきたニシノラヴァンダが一枚上のダッシュで飛び出して先頭の争いに。なかでもエンジンに火がついたサトノカルナバルは内の2頭を凌駕する末脚を発揮。懸命に抵抗するニシノラヴァンダをねじ伏せ、先頭へ突き抜けた。

比較的、落ち着いたラップ(前半600mの通過は34秒0)が刻まれたレースは、残り200m地点を過ぎても逃げ粘るニシノラヴァンダ、内々をソツなく立ち回り、前に襲い掛かったエンドレスサマー、そして外から追い込んだサトノカルナバルと、先行した3頭の争いに。なかでもエンジンに火がついたサトノカルナバルは内の2頭を凌駕する末脚を発揮。懸命に抵抗するニシノラヴァンダをねじ伏せ、先頭へ突き抜けた。

東京・芝1400mの初陣を7馬身差で圧勝。この日も距離の短縮や初コースを問題とせずにデビュー2連勝を飾った本馬は、2022年に創設されたノーザンファームミックスセールで里見治オーナーが落札した経歴を持つ。同セール出身馬の重賞制覇が初めてなら、デビュー3年目の新鋭・佐々木騎手も嬉しい重賞初制覇を達成。スプリントのJRA重賞を制したキタサンブラック産駒も初めて、数々の「歴史の扉を開く勝利」となった。